

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

研究会基本情報

タイトル：「バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究（フェーズ1）」（平成28年度第2回研究会）

Title: Typological Study of Microvariation in Bantu (Phase 1)

日時：平成28年12月17日（土曜日）午前13時より午後18時00分

Date & Time: 17 April, 2016, 1. p.m. - 6:00 p.m.

場所：AA 研302室

Venue: Rm.302, ICLAA, TUFS

参加者：11名

（以下、1の全体セッションが今回の研究会の中心、2,3についてはビジネスミーティングとして行った）

1. 全員

「Microvariation 19 パラメーターに沿った、参加者担当言語のデータ発表および討議」

Marten et al (2007) に上げられた19のパラメーターについて、参加者が持ち寄ったデータを突き合わせて検討した。検討したデータは、ベンデ語 (F12)、フィパ語 (M13)、ロンボ語 (E623)、ウル語 (E622D)、内マア語 (G221)、外マア語 (G221)、ランバ語 (M54)、カエ語 (G42d)、ケレウェ語 (JE24)、マテング語 (N13)、ニョロ語 (JE11)、ニハ語 (M13) である。時間的な制約があったため、パラメーターに対して値の同定が難しい現象を中心に議論を行い、理解の共有を図った。また具体事例をとおして検討することで、パラメーターおよびその値（選択肢）自体が指示する現象や、それを検討することの通バントゥ類型論における意義について参加者の理解を深めることができた。ここで得られた共有認識をもとに、参加者は今後、現在提案されている最新の142パラメーターからなるリスト (Guérois et al. 2016) に即してデータを整理し、値を同定していく段階に進んでいく。2017年3月に予定されている第3回研究会／国際ワークショップでは、その成果をもとにデータを統合し、上述のリストを構築したLutz Marten教授を中心としたロンドン大学SOASのバントゥ諸語研究チームを含む海外からの研究者とともに、マイクロバリエーションの通バントゥ類型論に対する実質的貢献について具体的な構想を練る。

2. 品川大輔 (AA 研所員)

「ダルエスサラーム大学 **Microvariation** ワークショップ報告」

2016 年 7 月 20-21 日にダルエスサラーム大学において開催されたワークショップ「**Approaches to morphosyntactic variation in Bantu**」について報告を行った。同ワークショップは、ロンドン大学 SOAS のバントゥ諸語研究チームとダルエスサラーム大学外国語・言語学科のメンバーが中心となって行われた。「**student/staff workshop**」という趣旨から、ダルエスサラーム大学の院生および若手研究者を主な参加者として計画されたが、開催時期にタンザニアに来訪していたヨーロッパからの研究者の参加もあった。日本からは、本プロジェクトのメンバーである米田信子、阿部優子、品川大輔らが参加した。20 日は SOAS チームのメンバーによるレクチャー、21 日は参加者がグループに分かれて個別の現象についてデータを持ち寄り議論を行った。グループワークの成果は全体でのディスカッションで共有された。このワークショップの成果として、現在バントゥ諸語の形態統語論的マイクロバリエーションに関する出版の計画が進行している。

3. 品川大輔 (AA 研所員) & 阿部優子 (AA 研共同研究員, AA 研特任研究員)

「最新版 **Microvariation** パラメーター内容の紹介およびバントゥ諸語のマイクロバリエーション国際ワークショップ (3 月 3-5 日開催予定) の事前打ち合わせ」

上述のダルエスサラーム大学でのワークショップを経て修正された最新のパラメーター・リスト (Guérois et al. 2016) について、その全体の構成とパラメーター値の多値化の 2 点を中心に概要説明を行った。またそれに関連して、上述 1. の議論のために参加者から提出されたデータをサンプルとして、パラメーター間の連動関係を数的に捉える試み、およびパラメーター値を地図上に表示するプレゼンテーションの方法についても紹介した。さらには、プロジェクトとしてこのような多様なデータを共有していくうえで、データ管理 (および共有・公開) の問題についての方針についても議論があったが、これは今後の課題として残されている。

一方、3 月 3 日から 5 日に AA 研で開催予定の国際ワークショップ (第 3 回研究会) については、参加予定者、ワークショップの構成、発表内容等、現段階での進捗状況について情報を共有した。